

Kartoffel カルトッフェル

ホクレン主任技師 浅間和夫

平成9年の春、北海道のジャガイモ宣伝のために品種を多数並べたポスターが送られてきました。

その中のコピーで、ポテト、ハパスなどとともに「カルトフン」と言うのがこだわり癖の目にとまりました。これは何語かと気になって調べてみたところドイツ語のつもりで書いたように見うけられましたが、正確なことは判りません。

発音より文字重視のわが国にあっても、かつて、新聞でリーガン大統領と書いていたのが、途中で発音に近いレーガン大統領になったり、ホワイト・シャツがより発音の近いワイシャツが一般化していることがあります。外国語を無理にカタカナ日本語で表示しても、いっぽうが絶対間違いだとは言い難い面もありますが、できるだけ、ネイティブに近いほうが良いに違いありません。

ドイツ語でジャガイモは、何故か女性名詞で、Kartoffelと書かれます。発音はカルタッファルに近いが、カルトッフェルと書かれていることが多い。これは古いイタリア語のtar-tufo（あるいはtartufo）からきたTartuffel

（uの上に点が二つ横に並ぶウムラウトがある）が変わったものです。

このドイツ語に近いものでは、デンマーク語のkartoffelやルーマニア語のcartóf（oの上に´がつく）があり、ロシア語のkaptóфелb, kaptóuika（どちらもoの上に´が要ります）も近い。

もうひとつのドイツ語Erdapfel（エールトアップェル、こちらはリンゴと同じく男性名詞）は隣国オランダのaardappel（アールドアッペン）の流れを汲み、「土中のリンゴ」の意味を持っています。フランス語もはっきりpomme de terre（ポム・ドゥ・テール）土中のリンゴと表現しています。

私どもが広く使っている米英語のポテトは発音からはパティトウと書いたほうがいいと思いますが、さかのぼればインデオのpapaに由来し、スペイン人がヨーロッパにこれを持ち込み、スペイン語のpatata又はpapa、イタリア語のpatataとか、トルコのpotatesやフィリピンのpatatasも同系列です。ただし、後でつくったエスペラント語のpatatoやbatatoはサツマイモのことであり、ジャガイモは土地tero＋リンゴpomeからterpomoとなっております。

ついでにアジアやその近くの発音も参考までに書いておきますと、脈絡は不明ですが、中国で馬鈴薯ma-lin-shu*、ベトナムkhoai-tay、インドネシアkentang、マレーシアubi-beng-gala、タイman-farang、ビルマar-lu、スリランカala、インドalu、イランsibとなっております。（*北海道東部にある中標津町でジャガイモを大切に育てて売っているグループ「マリンスクラブ」はマリンこと海とは関係なく、この語に由来しています）